



今月の先生

岐阜市民病院  
平工 由香氏  
産婦人科医長

平成13年岐阜大学医学部卒。  
岐阜大学病院産婦人科勤務を経て、平成  
14年より岐阜市民病院産婦人科勤務。日  
本産科婦人科学会専門医。

# 働くあなたのクリニック



教えて  
子宮頸(けい)がん  
予防ワクチン

子宮頸(けい)がん予防ワクチンが発売され、接種についての問い合わせが増えてきています。質問の多い項目について紹介します。

**接種をしたら、子宮がんにはかかりませんか？**

子宮がんには、「子宮頸がん」と「子宮体がん」がありますが、このワクチンは「子宮頸がん」に対するものであり、「子宮体がん」への効果はありません。「子宮頸がん」の発症には、ヒトパピローマウイルス(以下HPV)の感染が関与していることがわかっています。数多くあるHPVの中でも、より「発がん性」の高いタイプが10種類程度知られており、そのうちHPV16型/18型の2種類に対するワクチンが現在日本で認可され、接種が開始されました。この2種類は、日本における子宮頸がん患者の6割から発見されています。HPV感染の多くは、性交渉によるものです。HPVに感染しても、多くは一時的なもので、自然排除されると言われていますが、持続的な感染や「前がん病変」は、その後子宮頸がんを発症する原因と考えられており、こ

**費用はどのくらいかかりますか？**

このワクチンは、3回接種することで、効果が得られるとされています。初回投与後は、その1ヶ月後と、初回から6ヶ月後の合計3回行います。費用は3回で約5万円程度です。正確な金額は、接種される医療機関にてご確認ください。

**ワクチンを接種したら、今後子宮がん検診は受けなくてもいいですか？**

すべての発がん性ウイルスに対するワクチンではなく、また他の原因によりがんを発症する可能性もあり、完全に予防できるわけではありません。接種された方についても、子宮頸がんの発症が増える20歳以降は定期的ながん検診をお勧めします。

のワクチンは、持続感染や「前がん病変」を防ぐものです。「がん」そのものを直接防ぐ効果はありません。また接種時にHPV16型/18型に感染している場合、そのウイルスを排除する効果はありません。さらに、すでに「子宮頸がん」や「前がん病変」を発症している段階で接種をした場合、治療効果や発症を遅らせる効果はありません。

**接種に適切な年齢はいつですか？**

発がん性の高いHPVに感染する前の年齢が望ましく、接種対象は10歳以上の女兒・女性です。臨床試験では、15歳・25歳女性に対するHPV16型/18型の感染および「前がん病変」の発症を予防する効果が報告されています。26歳以上の女性についても、接種により同様に抗体を得ることができます。26歳以上についての予防効果についてのデータはありませんが、感染されていない方については、抗体を得ることで予防効果があるのではないかと考えます。

**どんな副作用がありますか？ワクチンの効果はどのくらい続きますか？**

現在までに、かゆみ・接種部位の痛みや腫れ・胃腸症状・関節痛・頭痛などの副作用が、10%を超える頻度として報告されています。まれに重篤なアレルギー症状を生じることもあり、接種後30分間は安静での経過観察を、また接種後1週間程度は何らかの副作用が生じないか症状に注意が必要です。

ワクチンの効果について、海外での臨床試験では、成人女性については平均5.6年、抗体と予防効果が続くことが確認されています。「子宮頸がん」の発症を予防するのに必要な抗体の量についても明確でなく、現在も経過観察が継続されています。そのため、ワクチンの追加接種が必要となる可能性もあります。

**最後に**追加接種など、今後新たな情報が出される可能性もありますので、注意してください。子宮頸がんは、

定期的な検診にて早期に比較的発見されやすいがんです。異常のない方でも、年に1回は、検診を受けられるようお勧めします。